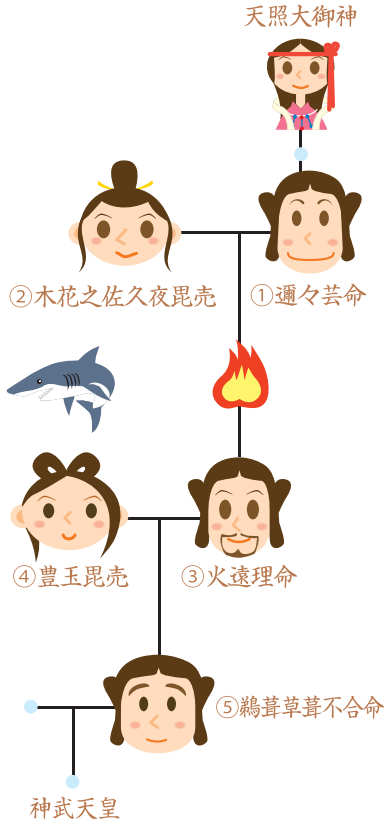
皆さんが暮らす奈良県で編纂された、古事記の世界をのぞいてみませんか？

はじめての古事記 第6話

日向三代の結婚と出産

ひむか

〈今回の登場人物〉



『古事記』にはさまざまな結婚や出産の話が出てきますが、なかでも日向三代と呼ばれる神々のそれはユニークです。

初代は①天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇々芸命という長い名前の神様です。この神様は天照大御神の孫にあたり、地上を治めるために高天原から日向の高千穂に天降りました。邇々芸命は②このはな木花之佐久夜毘売という美しい女神と結婚します。しかし一晩で妊娠したため自分の子ではないと疑います。そこで女神は「あなたの子ではないのなら無事に出産できないでしょう」と言い、産屋に火を放って出産することで潔白を証明しました。

こうして生まれた③火遠理命が二代目にあたります。火遠理命は海神の娘である④豊玉毘売と結婚しました。豊玉毘売は出産するとき「本来の姿に戻りますから絶対に見ないでください」とお願いしました。しかし火遠理命は覗き見して大きなワニ(鮫)に驚きます。このとき生まれたのが⑤天津日高日子波限建鵜葺草葺不合命です。この神様が三代目にあたります。そして鵜葺草葺不合命の子どもが神武天皇になるのです。

（本文 万葉文化館 小倉久美子）

編集部の古事記コラム

今回のお話に登場するトヨタマビメの出産の姿は古事記には和邇と書かれているんです。

そんな由来で、大阪の豊中市で発見された、約45万年前のワニの化石、マチカネワニには、トヨタマヒメイアという学名が付けられました。世界中の学者にもその名前で通じるそうですよ。

しかし、古事記が書かれた頃の日本にはワニはいなかったのではないかとも考えられていて、古事記に書かれている和邇とはワニ鮫のことではないかと言われているそうです。

海神の娘といわれる豊玉毘売。どんな姿だったのでしょうか。

クイズ 古事記ハカセへの道

先月の答え

① 国を譲った。でした。

出雲大社を建ててもらうことを条件に、高天原の神様に国を譲ったそうです。

今月の問題

Q 今回のお話の舞台ともなっている日向とは、現在のどこと言われているでしょうか？

① 奈良県
② 宮崎県
③ アメリカイリノイ州ヒューム

答えは来月号を見てね♪

問 県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX 0742-22-6904